

今に伝わる

令和元年11月7日(木)~28日(木)
会期中無休

いにしえの技

現代刀職展

2019

高松宮記念賞
太刀 銘 正忠作

2019 CONTEMPORARY SWORDS AND ARTWORKS
THE ANCIENT TECHNIQUES INHERITED FOR GENERATIONS



致道博物館

〒997-0036 山形県鶴岡市家中新町10-18 TEL:0235-22-1199

開館時間 午前9時~午後5時（入館は午後4時30分まで）

入館料 一般 800円／高大生 400円／小中生 300円（20名以上団体割引有）

※本料金で、企画展のほか常設展示・名勝酒井氏庭園もご覧いただけます

主催：公益財団法人日本美術刀剣保存協会／公益財団法人致道博物館 後援：日本美術刀剣保存協会庄内支部

共催：山形県・公益財団法人山形県生涯学習文化財団・鶴岡市教育委員会

現代刀職展 2019

令和元年 11月7日(木)~28日(木)

公益財団法人日本美術刀剣保存協会は、現代刀職者の育成と技の公開を使命のひとつに掲げ、付属施設である刀剣博物館を会場に「現代刀職展」を開催しています。この展覧会は60年以上の伝統がある「新作名刀展」「刀剣研磨・外装技術発表会」を統合して名称を改めたものであり、全国各地で活躍する現代刀職者たちの1年の成果を一堂に紹介する展覧会に位置づけられています。

日本刀は武器である以外に、信仰の対象や権威の象徴という側面を合わせ持ち、また古来より美術品として鑑賞の対象ともなりました。しかし長い歴史の中で、廃刀令や第二次世界大戦後の武器接收など、幾度か壊滅の危機に瀕します。大戦後にGHQによって行われた大規模な接收・廃棄から刀剣を守り後世につなげるため、昭和23(1948)年に美術工芸品として日本刀を保存・鑑賞・研究・伝統継承することを目的に、日本美術刀剣保存協会が設立されました。財団の創始および活動の中心にあったのが、酒田出身で古刀研究の権威といわれた本間順治氏(号 薫山)と、鶴岡出身で新刀研究の大家である佐藤貫一氏(号 寒山)です。そのため「現代刀職展」には特賞の高松宮記念賞や協会会長賞に加え、薰山賞・寒山賞が設けられています。

致道博物館では、創立まもない頃から薰山・寒山両氏のご助力をいただき、刀剣文化を紹介するため通算約40回の「日本名刀展シリーズ」を開催して参りました。平成21(2009)年からは、日本美術刀剣保存協会並びに刀職関係者のご協力のもと「新作名刀展」の巡回展示を行い、10年にわたって現代刀職界の最新技術を紹介することが出来ました。巡回展は今回で最後となりますが、今般の刀剣ブームは古刀から現代刀まで、より広範多岐に深まりをみせており、新たな歴史の幕が開かれようとしております。

本展では、刀剣・研磨・刀装具など、審査会での受賞作および無鑑査の優品46点を紹介いたします。また、刀剣文化を担うそれぞれの立場から「日本刀の未来」を語っていただく特別対談を開催いたします。どうぞ、ご期待ください。



高松宮記念賞 太刀 銘 正忠作 (部分)

2019 CONTEMPORARY SWORDS AND ARTWORKS
THE ANCIENT TECHNIQUES INHERITED FOR GENERATIONS

11月7日(木)
午後2時より

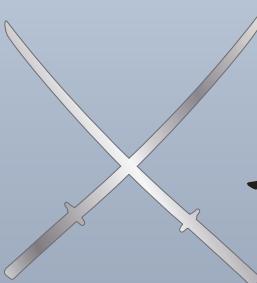
特別対談 「日本刀の未来」

刀剣博物館
黒滝哲哉氏

刀剣博物館学芸員 / 公益財団法人日本美術刀剣
保存協会学芸部たたら・伝統文化推進課課長

現代刀匠
上林恒平氏

日本美術刀剣保存協会無鑑査
山形県指定無形文化財保持者



◆会期中の日曜日は、刀匠・上林恒平氏の制作実演を行います



- JR鶴岡駅より
バス10分
「致道博物館前」
下車徒歩2分
- 山形自動車道
鶴岡I.C.より
車で5分
- 庄内空港より
車で20分

致道博物館

〒997-0036 山形県鶴岡市家中新町10-18 TEL:0235-22-1199
開館時間 午前9時~午後5時(入館は午後4時30分まで)